

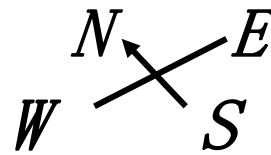
藤 沢

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット

2023年1月1日

第344号



主
な
記
事

- ・生物季節観測の実施・ふじさわ不戦の誓い行動
- ・戦争ではなく気候危機対策を
- ・福島原発事故、国との要望懇談
- ・人と人、人と自然との距離感

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ F A X 0466-87-4922

2023年を明るい年に！

昨年は、コロナ禍の上に、国連憲章違反のロシアのウクライナ侵略が始まり、日本では、敵基地攻撃能力保有と大軍拡、原発再稼働・新增設等々、そして大増税が計画されています。

本当に大軍拡で平和がやってくるのでしょうか？ 原発増強で安全な暮らしになるのでしょうか？ 国会で審議もしないで閣議決定で良いのでしょうか？ 軍事費を GDP 比 1% から 2% に 2 倍増強すると言いますが、2022 年現在、世界 1 位の米国の軍事費は日本の約 14 倍、2 位の中国は日本の 6 倍以上（読売 9/30）といいます。

軍事競争は意味がなく、暮らしを破壊するだけではないでしょうか。紛争は国連憲章に基づき、どこまでも話し合いの平和外交に徹するべきではないでしょうか。

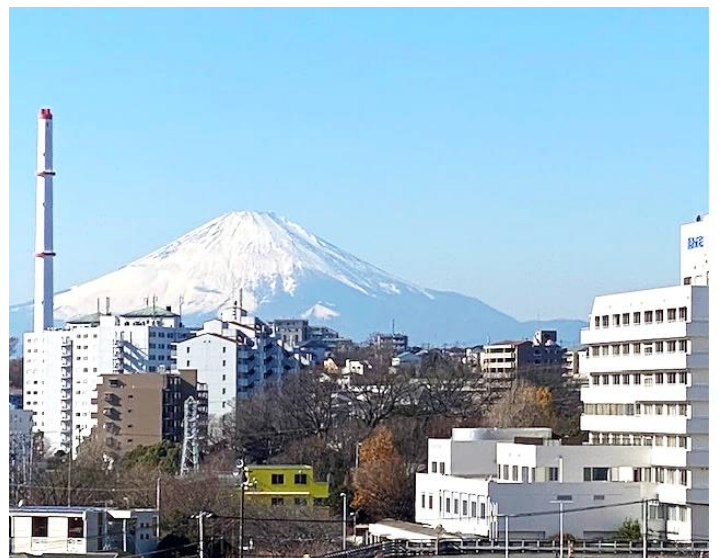
原子力発電所は、2011 年 3 月に福島で大事故を起こしました。16 万 5 千人が県内外に避難し約 12 年経つ現在も県外に約 2 万 1 千人が避難し、困難な生活が続いています。放射能は、生命を脅かし、何百年も森や土地を汚し続けます。1986 年に起こったチェルノブイリ原発事故も、未だに住めない地区があり、被害が続いています。地震の多い日本、気候危機で自然災害が迫る今、原発事故がいつ起こるか予想が付きません。

原発事故から学ぶものは、原子力発電は人類とは共存できないという事です。即時原発からは撤退を決断すべきです。

気候危機は待ったなしです。2050 年までに温室効果ガス排出ゼロにしなければ、人類は地球に住めなくなる危機に陥ってしまいます。電気は再生エネルギーに換え、石炭火力を止めるなど、意思があれば、すぐできる事はたくさんあります。また行政にも働きかけ、地元から温室効果ガス排出ゼロにしていきましょう。子ども達の未来のために、できる事を始めましょう。

戦後 78 年、戦争か平和かそして民主主義、気候危機の分かれ道に立っている私達、大事な年に耳をそばだて、隣人と話し合い、若者と議論し、希望ある未来への道を探っていきましょう。

(青柳節子)



富士山 (西富から市民病院、石名坂焼却場の煙突も)

生物季節観測の実施

近年、顕在化してきた気候温暖化に伴って、私たちの身近な動植物の営みにも変化がみられます。実際にどのような変化が起きているのでしょうか？

誰にでも簡単にできる生物季節の観測を継続することによって、身の回りで起きる環境変動を知り、将来を予測し、対策をたてることもできると思われます。

気象庁は 1953 年から全国で生物季節観測（植物 34 種目、動物 23 種目）を行ってきましたが、2021 年以降は桜の開花など植物 6 種目のみの観測となりました。しかし、温暖化の進行に伴って、よりいっそう長期的な生物季節観測の継続が求められるなか、環境保護団体など市民科学によって継続する必要があります。NPO 法人 CWS では、会員が中心となって 2021 年から藤沢市内数か所で梅と桜の開花、イチヨウの黄葉、セミの初鳴などの観測を開始しました。

まだ 2021 年・2022 年と 2 年分のデータしかありませんが、その結果から下記のように、いくつかの傾向がみえてきました。

1. 桜の開花は 3 月の気温の影響が大きい。両年とも 3 月が平年よりもかなり高温だったため、3 月中旬の早い開花となった。
2. 梅の開花は 1 月、2 月の気温の影響を受ける。2022 年はこの期間、低温傾向であったため、梅の開花は遅れた。
3. アブラゼミの初鳴は、7 月中旬以降の気温、梅雨明けの時期によって決まる。
4. イチヨウの黄葉は 9 月以降の気温の低下が影響する。横浜地方気象台の観測結果によると、1960 年代以降、イチヨウの黄葉時期は 1 か月以上遅くなっている。

今後、これらの観測を長期にわたって継続することで、さらに多くの現象が見えてくることが期待されます。なお、桜と梅の開花時期は、藤沢市内でもバラツキがみられました。藤沢市には、藤沢駅周辺の都市域、海岸地域、境川・引地川の河川沿い、内陸部など多様な環境があり、気候にも多様性があるはずです。そのため、より正確な生物季節観測のためには、藤沢市内の多くの地点での観察が必要であると思われます。皆様と一緒に生物季節観測を広げていけることを希望しています。（丸田恵美子、NPO 法人シティ・ウォッチ・スクエア）



福島原発事故 国の関係機関と要望懇談

福島第一原発の原子炉は現在も放射線物質を放ち続けている。事故当時に発令された原子力緊急事態宣言はいまだ解除されていない。事態収束どころか、さらなる事故のリスクがある状態で、政府は 2022 年末、原発再稼働、稼働年数延長の方針を打ち出し、汚染水の海洋放出の準備を着々と進めている。

昨年 12 月 13 日、いのち神奈川（神奈川県内の保養受け入れ団体の会）は、神奈川県内の保養団体を代表し、福島のこともたちをめぐめる問題を協議すべく、関連省庁との会議に臨んだ。年 1 回のペースで継続してきた、この協議には、いのち神奈川から 10 名、関係省庁（文科省、厚労省、復興庁、経産省、原子力規制庁）の担当者 9 名が出席した。また、3・11 甲状腺がん子ども基金の代表理事、崎山比早子先生、当時福島在住でその後避難生活を余儀なくされた松本のりこさん、阿部知子議員の横山秘書、会議の後半には山崎誠議員にもご参加いただいた。

事前提出した要望書をもとに関連省庁の回答、説明を聞き、追加の質問や意見を述べる、という流れで会議は進行。回答や説明に不十分または不明瞭な点がある度、矛盾を指摘し、異議を申し立てたこともあり、予想以上に協議の進行が遅れた。

しかし、不当で不十分な国の対応や政策に疑問を呈すという意味では、本交渉はある程度の成果があったともいえる。特に、甲状腺がんに苦しむ子どもたちに寄り添う活動を継続なさっている崎山さん、被災者の真の苦悩を勇気を持って発言して下さった松本さん。このお二人の貢献は大きかった。

残念ながら、子どもたちの未来への希望に繋がるような、具体的な約束を関連省庁から取り付けることはできずに終わった為、1 月に再度永田町を訪れ、抗議文を提出する予定である。

①原発からの撤退

②国の政策としてのこどもの保養の実現

③甲状腺がん検査の拡充の 3 点を主な要求事項として掲げた抗議文となる。

不当な苦悩を強いられている子どもたちがいる限り、私たちの活動は続く。（福島の子もたちとともに・湘南の会 藤岡みどり）

人と人、人と自然との距離感

最近バードウォッチングはじめた初心者の私は、ベテランの方々に教を乞う事たびたびです。その1つが野鳥撮影のマナーでした。そのマナーは「日本野鳥の会」はパンフを発行（ネットで購入可）しており、「7か条」を提唱しています。それだけトラブルがあるのでしょう。マスコミは、しばしば「撮り鉄」の迷惑行為を報じますが、バードウォッチングでも特に珍しい野鳥が絡むと同じようなことがあるそうなのです。



寒川町に冬になるとトラフズクというミミズクの1種が来る場所があると教えてもらいました。見たことがないので早速出かけたのが今年の2月のことでした。行ってみるとそこは遊具があるごく普通の児童公園でした。傍らには大きなクスノキが2本あり、その日は1羽のトラフズクがいました（写真右）

その後最近になって公園の木が切られてしまったと聞き、確かめに行ってみました。するとクスノキは枝打ちされて（写真下）、素人目にもトラフズクの来る環境ではないと分ります。



公園管理者が茂りすぎた枝を切っただけかもしれませんが。ただ有名になったトラフズクの撮影者と地元の方との間にトラブルがあり、行政が取って枝打ちした…と疑ってしまいました。

先の「7か条」の中に、珍しい鳥を見つけても他人に教えない。というのがあります。教えた場合に人が集まり問題が起こりそうなら教えないでよく、そっとして地元の方の生活と、野鳥の環境を守ることを優先するというルールです。野鳥を趣味とするからには決して迷惑とならぬよう心掛けたいものです。

（菅谷芳雄）

戦争準備ではなく、気候危機対策を

ロシアのウクライナ侵略による温室効果ガスの排出量は2月から約7か月間でCO₂の換算で約1億トンと分析されました。このように戦争は最大の環境破壊であることが、COP27（国連気候変動枠組み条約第27回締約国会議）の会場で紹介されました。

攻撃されている戦場の悲惨な状況が視覚的にだけでなく、甚大な環境破壊であることが科学的にも証明されました。ここ数年世界では気候変動に対して各国が対策を進め、将来に希望が持てるようになってきましたが、今回のロシアによる侵略はこの動きに突然大きく立ちはだかってしまいました。

今年パキスタンでは国土の1/3が洪水で浸水し、胸まで水につかりながら避難する人々の姿に胸を痛めました。またアフリカ東部の大干ばつとそれに伴う飢饉に苦しむ人々の姿にも衝撃を受けました。こうした事例からも明かなように気候変動の原因である温室効果ガスをほとんど排出してこなかった途上国が一番の被害を被っていて、今回のCOP27では多量な量を排出してきた工業先進国が「損失と被害」のための基金設立に合意したことがせめてもの救いです。

一方、わが国は気候変動対策が大いに遅れており、今年も化石賞を付与されました。化石燃料プロジェクトへ世界で最も多くの公的支援を拠出したことが受賞理由とか。最大の温室効果ガスを発生させる火力発電所は廃止どころか10基以上が建設稼働し、さらにはアンモニアを混ぜて使用する新たな石炭火力の技術開発に資金を投入するなど化石燃料依存の産業構造を温存している一方で、再生可能エネルギー推進は立ち遅れているのです。

また岸田政権は国会審議もせず、大軍拡を打ち出しました。これはアジアにおける歯止めなき軍拡競争に道を開くもので、ロシアの例を見るまでもなく戦争という最大の環境破壊の危険性を高めるものです。戦争準備に費やす資金は気候変動対策に回して、何よりもこの地球を気候危機から守らなければなりません。それが未来を生きる子供たちに対する我々の責任ではないでしょうか。

（湘南のなぎさを守る藤沢市民の会 島田啓子）

ふじさわ不戦のちかい平和行動

12月8日、サンパール広場で「ふじさわ不戦のちかい平和行動」が行われた。当日は藤沢市議会が開催中の行動だったので、各党の議員が参加できるようにするため、12時からの行動となった。共産党、立憲民主党、新社会党、社会民主党、神奈川ネット、その他無党派の議員なども参加し訴えをおこなった。環境運動、平和運動、その他市民運動の代表からも訴えが行われた。



総勢100名近い参加者で、サンパール広場を通る人に12月8日の太平洋戦争の開始された日を忘れてはならない、再び戦争を起こしてはならないことを訴えた。しかし、12月に入って、岸田総理が、防衛費の増大、敵基地攻撃能力保持など専守防衛の我が国のこれまでの防衛政策を180度変える政策を打ち出したことに、みんな驚きと憤りをもって、これを糾弾した。戦争を反省するどころか再び戦争をする国にしようなどということは絶対に許されるべきではない。憲法を守り、9条を守り、戦争はしないということは戦後日本の国是である。閣議決定をもって簡単に変えられるものではない。

集会には、子どもを連れたお母さんなども参加していて、平和を子供たちに残したいと訴えていた。また、おなじみの「どこでもアクション」のバンドも参加し、通行人に音楽で平和の大切さを訴えていた。

(小林麻須男)

放射能測定値(市民計測)

(HORIBA Radi) 単位 ($\mu\text{Sv/h}$) 地上50cm

12/13 雲 市役所分庁舎入口タイル 0.079

12/13 雲 同 植込み 0.074

ECONET INFORMATION

▲これからの住まいの在り方

講師 竹内昌義さん(東北芸術工科大学教授)

2023年1月15日(日) 10:00-12:30

場所 エコストアパパラギ2F

参加費\2000 予約 0466-50-0117

主催:NPO 気候危機対策ネットワーク

▲神奈川県母親大会

1月14日(土) 10:00-

厚木市文化会館(本厚木から13分)

分科会①映画「荒野に希望の灯をともし」

中村哲医師の活動35年の軌跡

②八田純人さん(農民連分析センター所長)講演

「食の安全、そして日本農業」

資料代1000円 映画500円

全体会13:00- 上野千鶴子氏講演 ほか

主催 実行委員会 ☎045-641-8815

▲気候危機スタンディング

1月16日(月) 15:00-16:00

藤沢駅南口通路の予定

ご一緒に行動しましょう 親子連れ大歓迎

主催:気候危機アクション藤沢

▲藤沢エコネットから

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

【ゆうちょ銀行 加入者名 藤沢エコネット

口座番号 00240-9-46501】

◆事務局会議1月8日(日) 10:00~

気候危機時計

2022年12月23日現在
このまま何もしなければ

地球温暖化1.5℃上昇まで
残りはあと

1.5℃に抑えるために
使えるCO₂の限度

炭素予算

6年。211日 世界 2,739億トン
藤沢 1,519万トン

NGO気候危機アクション藤沢

《編集後記》新年おめでとうございます。新型コロナは収まるどころか、第8波は未だピークとは言えない。昨年からの特徴は高齢者が感染し死亡者が多かった。藤沢市でもコロナにより累計で180人が亡くなった(12/31現在)。特に高齢者施設での感染、クラスター発生は続いていて家族は面会も出来ない。何より命が大切に守られなければいけない。十分な対策を願う。今年もよろしく！(H)